

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 4年 2月24日

事業所名 クリーンねっと若狭（愛称：すきっぷ）

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○				個室対応が必要な場合に備え、テントや間仕切りを準備して対応していく。
	2	職員の配置数は適切である	○			短時間雇用を配置して対応。	基準よりも手厚い配置をしてやっとなら対応できる利用状況のため、他施設との利用調整を進めていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		必要に応じて手すり、踏み台等を設置。	車いす利用児童が増えてきたが、戸のレール等でつばりが多く自由に動きにくいので、改善を検討していきたい。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○			職員全員で対応等について検討している。	ミーティングを定例化して情報共有できてきているので、継続していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○				令和4年1月にアンケートを配布。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している		○		法人のホームページで公開。	令和3年度は令和4年2月に更新。あまり周知されないので、お知らせしていきたい。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		第三者による外部評価は取り入れていないが見学等は常時受入れている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している		○		外部研修へ積極的に参加している。	事業所連絡会への全員参加等、スキルアップへの取り組みを今後も継続していく。
適切 な支 援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			子どもの変化に対応できるように工夫している。	今後も子どもの変化を見逃さないように対応していきたい。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○			ツールをミーティング等でも活用しながら、情報共有していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			職員全員が関わっている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している		○		コロナ禍の現状を勘案して変化を加えている。	コロナ禍で活動が制限されているため、状況を見ながら外出等も再開していきたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○		利用時間に応じて活動内容を変えている。	コロナ禍で活動が制限されているため、不十分と感じるところは改善していきたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			子どもの状況や過ごす時間によって工夫している。	コロナ禍で未だ活動内容に制限がかかっているが、状況を見て新たな活動を考えしていきたい。
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			ホワイトボード等を活用して各自把握できるようにしている。	月に数回のミーティングで大筋を確認し、その日その日では、ホワイトボードで役割を確認する等工夫している。	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 4年 2月24日

事業所名 クリーンねっと若狭（愛称：すきっぷ）

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な 支援の 提供	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している			○	当日の打合わせは難しく、翌日に情報共有している。	放課後は終了後に確認する時間は無いので、翌日の開始前に確認の時間を確保していく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			連絡帳と連動して記録を残せるようにしている。	ミーティングで、気になること等を話し合い、次につなげている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			長期休暇前に期間調整して見直している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			外へ出る機会を意識して取り入れている。	コロナ禍で外へ出にくい状況ではあるが状況を見て外出の再開していきたい。
関係機 関や保 護者 との連 携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			担当者会議後はすぐに情報共有している。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○			下校時刻の、利用予定について情報共有している。	学校との情報交換には特に気を配っている。今後もきめ細かに情報共有していけるようにしていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		保護者、相談員を通して連携している。	ケアが必要な時間帯のみ看護師を配置してきているが、今後も安定して配置できるようにしていきたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			事前見学等により情報を得ている。	特に新規利用の場合は事前に本人の情報を得ておけるように今後も準備していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		有効な支援方法など情報提供している。	切れ目のない移行ができるように今後も情報提供をしていきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		事業所連絡会を通じて研修等に参加している。	今後も継続して研修の機会を活用していきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			○		コロナ禍で機会は無い状況だが、今後は機会を作っていきたい。
	27	（地域自立支援）協議会等積極的に参加している	○			参加している。	今後も積極的に参加していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			連絡帳以外でも有益な情報は共有している。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		有効な支援方法や気付いたことは伝えている。		

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 4年 2月24日

事業所名 クリーンねっと若狭（愛称：すきっぷ）

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			利用契約時に必ず伝えている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている		○		連絡帳で伝わりにくいことは直接伝えている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○		保護者会は組織していない。 必要な情報は保護者間で共有できるように橋渡しをしていきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			可能な限り迅速に対応している。	今後も苦情が繰り返さないように改善すべき点は速やかに改善していきたい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○		定期的な発信は難しいが連絡帳で随時発信している。	ホームページでの情報発信強化がまだできていないので、今後強化していきたい。
	35	個人情報に十分注意している	○			情報の扱いについて書面を作成している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			必要に応じて視覚支援を活用。	
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○		行事企画できる規模は無いが、地域住民とのつながりは意識していきたい。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○			マニュアルは作成済みだが、周知できていないため今後お知らせしていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○		年1回以上の訓練を実施。	定期的な訓練を今後も実施していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			県研修の伝達研修を実施。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			拘束等が必要な場合は説明の上、了解を得ている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			委託先で対応確認できている。	
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○		ミーティングで共有している。	事例集は作成していないが今後もミーティングでの振り返りを継続していく。	